

梨病害虫発生状況調査速報

NOSA Iひょうご 豊岡事務所・豊岡農業改良普及センター・JAたじま豊岡営農生活センター

調査日：令和5年8月18日（金）

1 調査項目

表-1

調査項目	黒斑病	ハダニ類	果実径
調査標本数	100葉	20葉	20果

2 調査結果

(1) 黒斑病（調査結果 9～23%）

発生量は、ここ数年で一番多くなっています。7月から8月にかけて平年を上回る高温が続いた中で、台風7号による大雨の影響を受け、増加したものと考えられます。

黒斑病は、毎年の防除の積み重ねが大切です。高温多湿の条件下で発生しやすくなるので、大発生しないように、定期的に薬剤等による防除を実施しましょう。

病原菌の付いた落葉の除去、施肥管理には十分注意しましょう。

（薬剤例）ストロビードライフロアブル 3000倍液 収穫前日まで 年3回まで

※ 黒斑病が果実に発生したまま出荷されると、出荷中に病斑が広がり、品質等に影響が出る恐れがあります。選果の際は、病斑を見落とさないよう、十分注意しましょう。

(2) ハダニ類（調査結果 0.05～0.5匹/葉）

園により発生量に差がありますが、どの園も現時点での大発生はしていません。

ハダニ類は、高温と乾燥条件で多発する傾向があります。今後は発生量の増加が予想されるので、防除を実施し大発生させないようにしましょう。

早期落葉による減収と味の低下につながるので、注意しましょう。

（薬剤例）兵庫県二十世紀梨病害虫防除暦参照。

ダニ剤は、同一薬剤を連続して使うと薬剤抵抗性が獲得されてしまう可能性が高いので、同じ薬剤を年に2回使わないでください。

(3) その他（カメムシ類）

一般的に、カメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は発生が少ない裏年に該当します。

しかし、今後の気温が高いとカメムシ類が活発に活動するため、果実の肥大に伴う果実袋の上からの吸汁被害が懸念されます。チャバネアオカメムシ等のカメムシ類を見かけたら、適切に防除してください。

(4) 果実の生育について

表-2

調査地区		調査結果 平均果実径 (mm)	
		令和5年8月 (前年対比%)	令和4年8月
豊岡	金剛寺	85.2 mm (100.9%)	84.4 mm
城崎	飯谷	73.0 mm (100.1%)	72.9 mm
竹野	濱須井	78.6 mm (101.2%)	77.7 mm
平均		78.9 mm (100.8%)	78.3 mm

3 気象情報

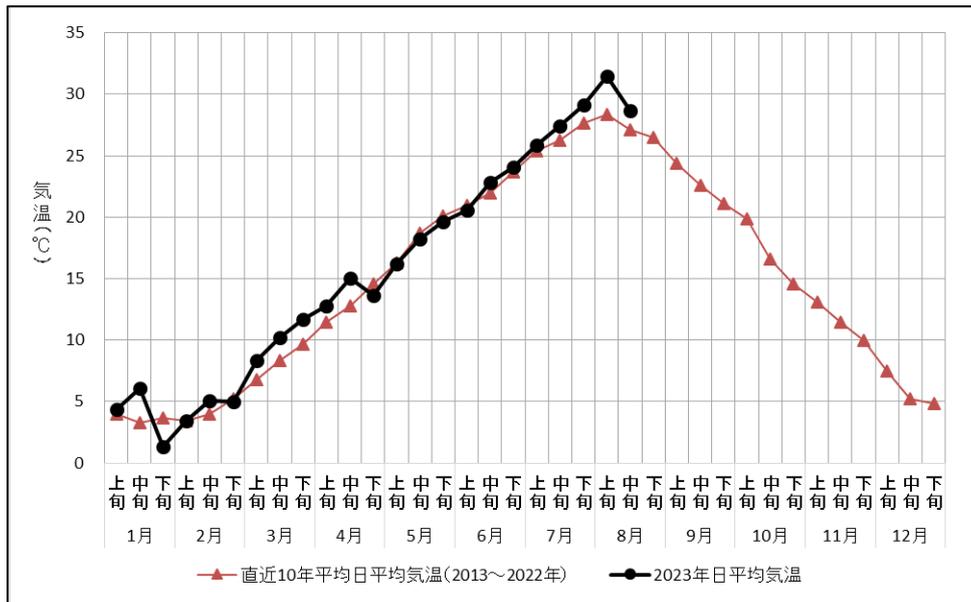


図-1 直近10年平均(2013~2022年)、2023年の日平均気温比較(豊岡)

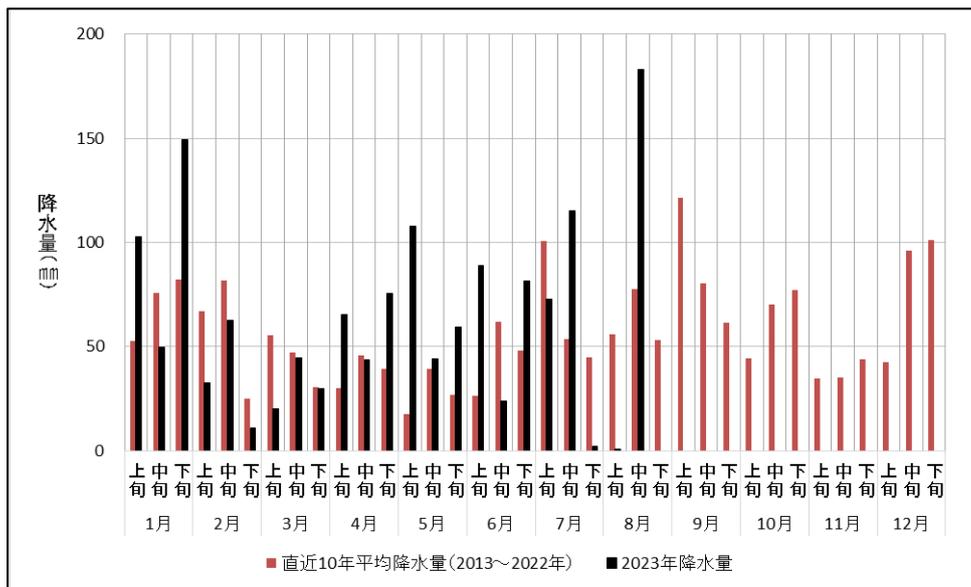


図-2 直近10年平均(2013~2022年)、2023年の降水量比較(豊岡)

～気象について～

平均気温は、7月上旬までは概ね平年並みに推移していましたが、7月中旬から8月中旬にかけて、平年を大きく上回る旬が続きました(図-1参照)。

降水量は、7月中旬は平年を大きく上回りましたが、7月下旬、8月上旬はほとんど雨が降りませんでした。8月15日の台風7号では、155.5mmという記録的な降水量となったため、8月中旬は平年を大きく上回りました。(図-2参照)。

台風7号では、最大風速11.9m/s(最大瞬間風速24.7m/s)を記録しました。再度、果樹棚の補強や点検を行い、今後の台風に備えましょう。

☆薬剤、防除の詳しいお問合せ・ご相談は・・・
 豊岡農業改良普及センター (TEL 26-3705)
 JAたじま豊岡営農生活センター (TEL 24-3641)

☆共済事故(病害虫、気象上の被害等)の発生は・・・
 NOSAIひょうご 豊岡事務所 (TEL 42-4133)